

Workshop Led By Maya Soetoro-Ng  
マヤ・ストロさんによるワークショップ



Field Work with Hawaii Kai Hui  
フィールドワーク



Workshop Activity ワークショップ



Friendship 友情



広島創生イノベーション  
ハワイ グローバルスクール  
**授業記録**

7/28 Thu ~ 8/4 Thu

Shaping Vision 2030 for Community Revitalization  
and Sustainability Leadership Forum



広島県立三次高等学校



広島県立安古市高等学校



広島県立広島国泰寺高等学校



広島県立吉田高等学校

于一△B feel



広島市立広島工業高等学校

于一△A  
KFS's



広島県立広島観音高等学校



広島大学附属  
高等学校

事務局スタッフ



先生方

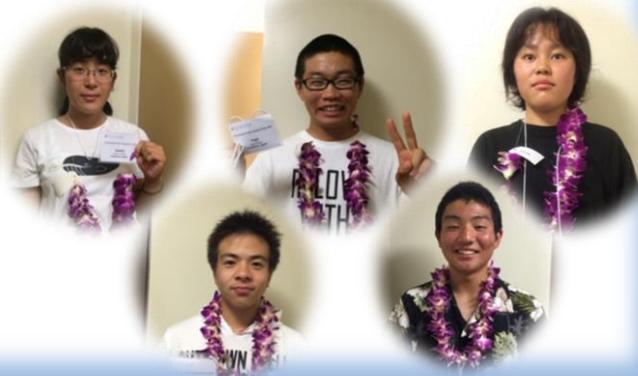


# チームC

## KKS HOMES

広島県立広島高等学校

広島県立西条農業高等学校



広島県立呉三津田高等学校

広島県立福山明王台高等学校

# チームD レ点



尾道学園尾道高等学校



広島県立尾道北高等学校



NPO・社会人・大学生メンター



**Kalimantan**



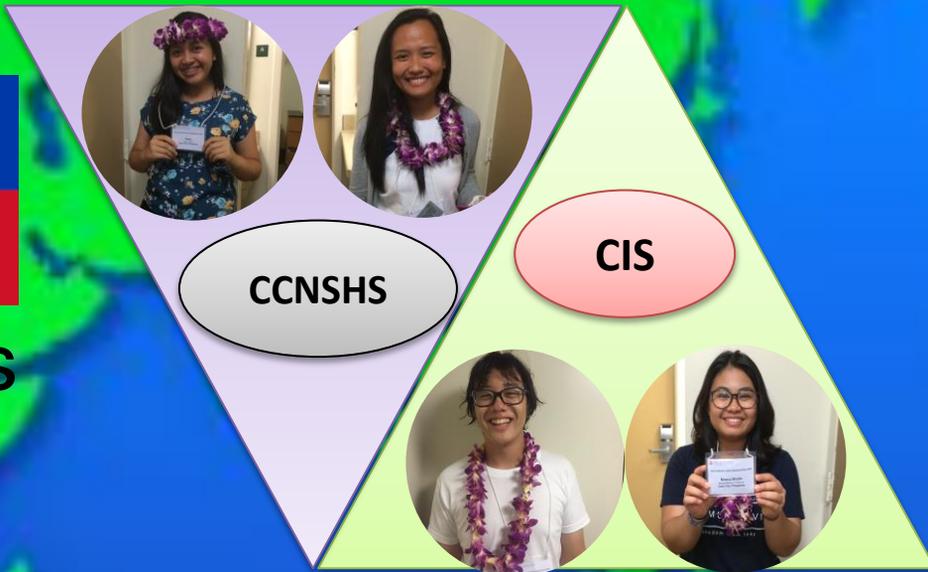
**Surabaya**



# Indonesia

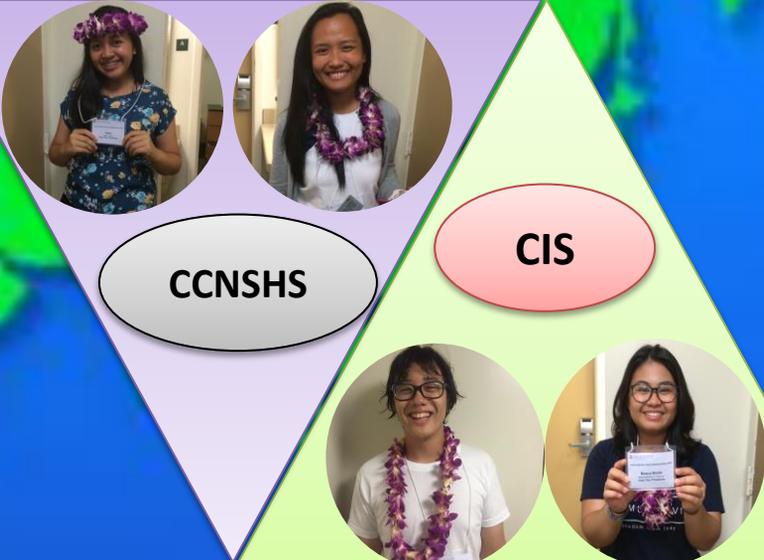


# Philippines



**CCNSHS**

**CIS**

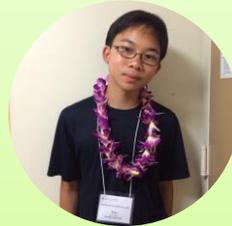


# New Zealand

Scarsdale



Brooklyn Friends



U.S. Mainland

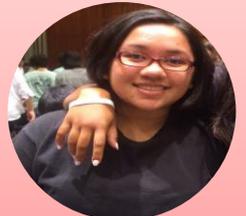
Furr



U.S. Hawaii

Nanakuli

他7名



# 1日目

7月28日 (木)



出国

関西国際空港・  
福岡空港から、  
ホノルルに向けて  
出発!

約8時間のフライト

機内



到着

EAST-WEST CENTER  
(EWC)へ  
バスで移動





# 1:00~2:00 PM EWCキャンパス ウォーキングツアー



## EWC Frear Hallに到着

空港からバスで宿泊場所に到着しました。

荷物整理をしたあとミールカードをもらい  
カフェテリアで初めての昼食をとります。  
カフェテリアはバイキング形式で、各自  
好きなものを選んで食べました。

## EWCキャンパス内ツアー

昼食の後は、EWCの方にキャンパス内を  
案内していただきました。

キャンパスセンターやATM、日本庭園な  
どを巡り、ハワイ大学の雰囲気を感じ  
ることができました。





2:00~2:30 PM  
ナムジ氏による  
プログラム説明



Program Welcome & Introduction

## ハワイグローバルスクールにあたって

グローバルスクール中、主に活動していくEWC Keoni Convention Centerで、このプログラムを作成したナムジ・スタイナマン氏からプログラムの説明をしていただきました。

「大切なのは、積極的に会話をしようとする事、みなさんの力で創造すること。とても短い間ですが、このスクールでのつながりを大切にしてください。」とナムジ氏。

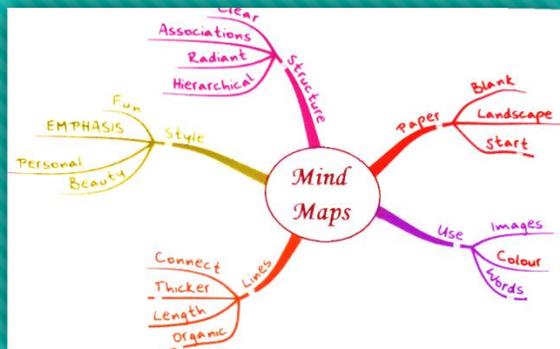
“Open Mind”の精神で  
積極的に他国の生徒に話しかけるよう訴えました。





2:30~3:30 PM

# ナムジ氏による アイスブレイキング



## Ice Breaking

# 参加者の自己紹介

～あなたのグループをマッピングしよう～



☆メンバー紹介用に、グループのアイデンティティマップを創ろう。

- ①それぞれのグループに模造紙があります。
- ②模造紙の中心に形を描きます。
- ③中心から枝分かれさせ、自分の名前を書いてください。
- ④あなたのシンボルやロゴ、サイン等も描いてください。
- ⑤さらに、3つの枝を伸ばします。
- ⑥1つ目の枝には、あなたの市や町を書いてください。
- ⑦2つ目の枝にはあなたを表すキーワードやフレーズ、絵、ものを書いてください。  
(趣味や特技、好きな教科や思い出に残った場所、好きな食べ物など)
- ⑧3つ目の枝には、地域の重要な問題について文字や絵などで書いてください。
- ⑨最後に、グループのメンバーについて発見したことを共有しましょう。

## ☆あるグループの発表



私たちのグループは、別々の国にいても**お互いの繋がりを強固なものにしたい**という思いから、中心の形を「握手をしているような形」にしました。異なる国の人たちが一つに集まり友情を深めるため、グループ名を“UNITY”にしました。(ハワイ語では“LOKAHI”、日本語では“一緒”という言葉になる。)





# 3:00~4:30 PM ハワイアン文化体験 (首飾りづくり)



## Making a "LEI"

1人およそ50個もの生花を使い、レイづくりに挑戦しました。  
現地の高校生に教えてもらいながら、自分だけのオリジナルレイが完成。

### STEP 1 花から茎を外す



### STEP 2 花に針と糸を通す



### STEP 3 1, 2を繰り返し完成



それぞれの願い(WISH)を書きました！



5:00~7:00 PM

# アロハセレモニー ウェルカムパーティー



## Aloha Ceremony & Welcome Reception

### 本場のフラダンス

つくったレイを首にかけて**全体記念写真**を撮った後、**EWC Wailana**にてアロハセレモニー、ウェルカムパーティーが行われました。

このセレモニーでは、本場の**フラダンス**を間近で見ることができました。時差で疲れが見えた広島の生徒も、太鼓とかけ声に合わせて緩やかに踊るフラダンサーにリラックスして見入っているようでした。



### 特別ゲストからの一言

特別ゲストにお越しいただきました。



在ホノルル日本国総領事  
三澤 康 氏



EWC所長  
チャールズ・モリソン 氏



ハワイ大学ディレクター  
マヤ・ストロ 氏

### 禎子さんのミュージカル



少年、少女を中心とした劇団オハナ・アーツのメンバーに、佐々木禎子さんの生涯をテーマにしたミュージカル **"Peace On Your Wings"** の劇中歌を披露していただきました。

太平洋戦争において真珠湾攻撃を受けたハワイの人々が広島の前爆を題材としたミュージカルを上演する…。平和に対して非常に大きな意味を持つ試みであり、日本とハワイ、そして世界につながる架け橋となり得る貴重なものだと感じました。彼らの歌を聞いた広島のある生徒は、「自分たちも、自分たちなりのやり方で平和に対するアプローチをしていきたい」と話していました。



# 2日目7月29日(金)

～ワークショップ・講義・MV作成～



# 9:00～ ワークショップ ミニデザインシンキング

ハワイ EAST-WEST CENTER (EWC)

プログラム開発ディレクター  
ナムジ・スタイナマン氏



## 「貝にならないで」

「せっかくハワイまできたのだから、海外の生徒とたくさん話をしたり、一緒に食事をしたりしてコミュニケーションをとってほしい。殻に閉じこもる『貝にならないで』。2日目のワークショップは、このような加藤(カトケン)さんの挨拶から始まりました。

## 見つめ直す、それぞれの課題

今回のミニデザインシンキングアクティビティでは、身の回りで経験した問題や、世界中で起きている問題を**デザイン思考**で解決に導くワークショップを行いました。

ナムジさんから説明を受けた後、生徒たちは海外の生徒とミックスグループで課題と解決方法を探し始めます。

### ミニデザインシンキング

- ①世界中で、学校で、あなたや誰かが経験したい直面したいしている問題を書こう



ハワイの生徒の意見  
ハワイでは、ホームレスの問題が深刻だと感じる。ワイキキから少し離れたところでは子供のホームレスがたくさんいる。それ以外にも、税が高い、低賃金、麻薬など問題はたくさんある。

- ②問題だと思ふことを一つ選び、ブレインストーミングで解決しよう

### 「水質汚染」問題に対するコメント

- ・水がどれだけ汚いかすぐにわかる機械を発明する。
- ・川のごみを肥料に変える機械をつくる。
- ・川を掃除するロボットをつくる。



- ③あなたが好きなアイデアを3つ選んで投票しよう

**ブレインストーミング**で問題解決方法を考える中で、柔軟な発想力が試されました。英語がうまく話せない生徒も、iPadの翻訳機能を使用したり、身振り手振りでコミュニケーションをとろうと奮闘しており、前向きな姿勢が伺えました。

プロトタイプ(試作品)の作成には至りませんでしたが、だんだんと議論が盛り上がってくる様子が伝わってきました。





# 10:40～ ワークショップ リーダーシップと地域創生について

ハワイ大学ディレクター マヤ・ストロ氏(オバマ大統領の妹)



## 「疲れているのに、聞いてくれてありがとう」

登壇したマヤさんは真っ先に感謝の言葉を口にしました。このワークショップでは、平和や持続可能な世界をつくるために何ができるのかを突き詰めて考えました。

### 1. 「Peace(平和)とは？」

### 「Sustainability(持続可能性)とは？」

① 5分間で平和と持続可能性の関係性を定義しよう

#### 生徒の意見

相手を敬うこと・相手を理解しようとする事・敬けんであること・他人の価値観を大事にすること・自由・安全・幸せであること・闘争のないこと・社会の正あ義・笑顔でいること

② 2分間で様々な平和の定義について話し合おう

#### 生徒の意見

私や他人、そして次の世代の人たちにも利益があるもの

③ 2分間で改めて平和と持続可能性を定義しよう

#### 生徒の意見

保存 利益 保つ 次の世代 維持



ある生徒の「平和とは笑顔でいること」という定義づけに対して、マヤさんはこう言いました。「その通り。笑うことはとても大切。ばからしいと思われるかもしれないけれどとても大切なこと」。

ワークショップの途中、日本の小学校のVTRを見ました。小さな平和の例(みんなが幸せなら自分も幸せ)を見て、周りからは自然と拍手が起こりました。このVTRは、問題を解決するためにまわりの子がサポートし、解決の結果としてみんなが幸せになった例です。

VTRを見て、紛争の解決方法などについて改めて議論しました。

$$\begin{aligned} & \text{Peace Within (Attitudes)} \\ & \quad + \\ & \text{Peace Between (Behaviors)} \\ & \quad + \\ & \text{Peace In-Service (Structures)} \\ & \quad = \\ & \text{Resilient Peacebuilders} \end{aligned}$$

## 2. 平和の種を植えよう



### 1. 土壌を準備しよう

- 平和の壁はどんなものが存在するか（宗教の違い・価値観の違い・民族性・主観・誤解・コミュニケーションの壁など）
- 平和を築くための活動や道具には何があるか
- チームのメンバーが安全と平和、幸せをもっとも感じるためには何が必要か
- 年齢、背景などが違うチームのメンバーにインタビューして、意見を持つ

### 2. 収穫の時間を想像しよう

- あなたのチームがシェアした未来はどのようなものか
- 誰が含まれるか
- その人と一緒に何をするか
- その未来はどのように感じるか
- どのように責任の共有をするか
- どのように問題を解決するか

### 3. 種を植えよう

- あなたのまわりで何か小さな争い事が起きているか
- あなたはどうやってそれを止めるか
- 誰が会話を進めるか、誰が決めるのか
- あなたのコミュニティはどうやってつながっているか

### 4. 大切に育てよう

- あなたはグループ内でどうやってお互いを助け合ったか
- どんな道具を使って助け合ったか
- どのくらいみんなの幸せや安全、平和を確かめたか
- 自分が与える長期的な影響をあなたは理解しているか

自分の学校の庭をきれいに  
するプロジェクトからでもいい、  
**周りにインパクトを与えてほしい**  
とマヤさん。小さくても、みんな  
ができることはたくさんあると  
訴えかけました。

また、平和で持続可能な世界  
のための闘争解決ツールとして  
**「疑って信じる解決方法  
(Doubting-Believing Sharing)」**  
を教えてくださいました。



What can you do today?  
今日何ができるか、考えてみよう。

# 13:00～ 生徒の実践例(アメリカ) ～地域連携・サービスラーニング～

アメリカ・ブルックリンフレンズ校



## サービスラーニングで大切にしていること

午後からはブルックリンフレンズ校(アメリカ)による実践例の紹介をしていただきました。二人の生徒からのイントロダクションの後、ブルックリンフレンズ校が「サービスラーニング(奉仕活動)」で大切にしていることを3つ挙げました。

- ①クリティカルシンキングスキル(批判的思考力)
- ②パッション(情熱)
- ③グローバルシティズム(世界市民としての意識)

特に③のグローバルシティズムでは、助け合い、皆が協力してお互いの義務を果たすことが大切だと話していました。



## 直接的な活動と、社会正義的な活動

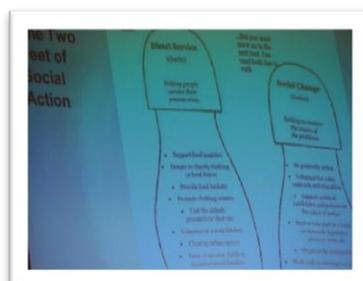
次に、ナタリア先生がブルックリンフレンズ校で取り組んでいるサービスラーニングについて話してくださいました。

ナタリア先生の「**社会正義(Social Justice)**ってどんなもの？」という質問に対し、**公平性、機会均等、平等な権利**・・・と口々に発言する生徒たち。また、「地域のためにサービスラーニングをしたことがある人はいますか？」との問いかけには多くの生徒が挙手し、ビーチの清掃やゴミ拾い、校内美化など取り組んだことのある活動を発表しました。その中には、お金のない人にサンドイッチをつくらせて配る活動を行ったことのある生徒もいました。

「これらはすべて**直接的な活動**ですね。」とナタリア先生。直接的に手助けすることは**つらい状況にアプローチすること**であり、生徒が発表した奉仕活動はどれも**地域に関わる良い取組**だと評価されました。

ここで、両足の絵が描かれたイラストがスライドに登場しました。片方は**直接的な活動**であり、もう片方は**社会正義のための活動**です。

「**直接的な活動**」は根本から**原因を取り除くものではない**こと、そして、困っている人たちの原因を解明し取り除くために、彼らを**弁護・支持**するには「**社会正義的な活動**」が必要だと説明されました。



## サービスマーケティングで必要なこと

続いて、ナタリア先生はサービスマーケティングを行う際に必要なことを教えてくださいました。まず、「自分たちの行動に**責任をもって役目を果たすこと**」、「**継続的な取組をすること**」、「**強者、弱者をつくらず一緒に活動し相互協力すること**」、そして「**地域に必要なものを見極めること**」。

地域に貢献しようとしているP4Yのメンバーに対し、「今までにみなさんは地域にどんな影響を与え、何を築いてきましたか？」と問いかけます。



地域のためにやってきたことに  
意味を見いだせなくなったら、  
次に活動するとき、活動の「意味」を  
一番に考えてみては。

ナタリア先生は、貧困などの問題にアプローチするとき、自分たちだけで解決しようとするのではなく、その問題から一番影響を受けている人(この場合は貧困者)と**一緒に活動**していくことで、それぞれがお互いに恩恵・利益を受けられるようにすることが大切だと語ります。

## サービスマーケティングの注意点

一方で、奉仕活動に参加するとき、自分たちが大きな**パワー**を持っていることを忘れがちになってしまうのではないかとナタリア先生は危惧しています。

「他人の価値観に影響を与えたり、誰かに対して強い影響を持つような活動をしたりするのは、平等に、一緒にやっという考え方が重要。まず活動の前に**全員が活動内容を理解**していなければなりません。」

ナタリア先生の講座をとっている生徒は、アイデンティティを考慮し、問題の根源にある原因は何かを考えていく方法で取り組んでいるそうです。

## ブルックリンフレンズ校の実践

最後に、ブルックリンフレンズ校の実践についてのプレゼンを聞きました。プレゼンを行った生徒は、「自分が授業の司会進行を楽しんで務めている」と言い、先生から教えてもらうものだけでなく、**友人など身近な人から学べる**ことがたくさんあるといいます。

実際に問題にアプローチする際、思考ツール「**The Problem Tree**」を使い、**いろいろな視点で一つの問題にアプローチ**できるよう工夫しているそうです。生徒一人一人がどこでどうやって問題に関わるかを決めたり、計画を立てたりして活動している様子が伺えました。

彼らの目指すゴールは3段階あり、1段階目は**地域問題の重要性を学ぶ**こと。実際に3回の折衝に参加し、銃規制について考える機会を設けたと話していました。2段階目は、**協力して問題解決**すること。そして最終的なゴールは、地域の若者として、**自分たちよりも大きな問題に関わって**いくことだそうです。

現在は、刑務所にいる人に手紙を出し、政府やメディアへ働きかけを行う「**ハンガーストライキ**」という実践例を紹介してもらいました。この時も、必ず他者と関わり合いを持つことを念頭にアクションを起こしていると言っていました。



# 14:45～ SNSを使用した地域連携

コネクションズパブリックチャータースクール  
クリス・クア氏



## クリスさんのMakery



実践例の紹介の後には、クリスさんによるSNS講座が行われました。はじめにクリスさんは、ソーシャルメディアはどのようにつくり、運営していくのかについて、実体験をもとにお話してくださいました。

クリスさんは「Makery」(MakeとBakeryを合わせた造語)というなんでも屋をしている方で、とても忙しいけれど、家族と一緒にいる時間をとても大切にしているそうです。道具を買うことができない生徒たちでも物づくりを体験し、創造力と実践力を養う場としてMakeryのスタジオにはプリンターやレーザーカッターなどがあるのだと朗らかに語ってくださいました。

## スマホを使用したワークショップ

まず最初の活動が、「P4Yの写真をSNSでハッシュタグをつけてシェアすること」。スマートフォンやタブレットを使用したワークショップとなり、生徒たちはお互いの電子機器をのぞき込みながらSNSに投稿しました。

### ★10分間のシェアタイム

何のソーシャルメディアを活用していますか？

どのくらいの頻度で使っていますか？

毎日何時間使っていますか？

大人と共有してみよう！



シェアの内容から、ほとんどの高校生がスマートフォンでSNSを使用していること、SNSに触れる機会が非常に多いことが分かりました。

## SNSの恐ろしさ

クリスさんは、SNSが多く使われる時代だからこそ、ネット上に情報を載せる時は**注意が必要**だと説明します。

ソーシャルメディアは何十万人も使用しているとてもパワフルなものであり、オンラインでは安全で責任感をもった振る舞いをする必要があります。

### ★10分間のシェアタイム

SNS上で怒りや絶望に囚われてしまう人々を助ける方法をシェアしよう。



実際に画面を操作しながらSNSの利便性と扱い方について知ることができ、いつもとは違ったワークショップで有意義な時間を過ごすことができました。



# 16:45～ ハワイにおける ケーススタディの紹介

Hawaii Kai Huiのメンバー



## Hawaii Kai Huiの活動

ハワイの美しい海や山を保護するために活動しているHawaii Kai Huiのジョアナさん、スーザンさん親子にお話をいただきました。

娘のジョアナさんは、もともとあるハワイの海や山の自然を保護する活動をしており、現在は湖を保護しようとしていること、**これ以上開発を進めて家やホテルを建てないようにしたい**ことを話してくださいました。

## 「美しい自然をその目で見て確かめて」

ワイキキ周辺はホテルや商業施設が立ち並びにぎわっているけれど、「あれはハワイの本当の美しさではありません。明日フィールドワークの際に、ハワイの本当の自然の美しさを自分の目で見て確かめてください」とジョアナさん。

続いて母親のスーザンさんは、Hawaii Kai Huiが軌道に乗るまでのストーリーを紹介してくれました。

グループができた時、初めてのミーティングでFacebookのアカウントを作成し、クラウドファンディングによって寄付を募りました。グループの活動を知らない人が多かったため、プラットフォームをつくり、毎朝看板を持って活動を広めました。そうして、**90日間で5000 \$ (約50万円)**の寄付を得ることができたといいます。

「母から娘の世代まで続けなければ意味がない」と、持続可能なグループの存続のためすべてのメンバーが役職を持ち主体的に活動できるよう工夫をしているそうで、今までに何件かゴルフ場やホテルの建築を取りやめさせることができたそうです。

## 「大切な場所は、自分たちの手で守る」

スーザンさんは誇らしげにこう語ります。「**みなさんにも大切な場所があるはず**。私たちは、その場所を自分たちの手で守るために活動しています」。グローバルスクール3日目(7月30日)にHawaii Kai Huiが保護する場所を4地点回る予定になっているため、私たちのグループの看板を探してほしい、と投げかけました。

最後に、全員でHawaii Kai HuiのSNSアカウントにリフレクションを投稿して講義を終えました。



# 18:00～ オハナアーツのメンバーと ミュージックビデオ製作

オハナアーツのメンバー



## 一緒に鶴を折ろう！

夕方からは、場所を移して体で表現するワークショップを行いました。  
まずは、日本の生徒が海外の生徒に折り鶴の折り方を教えます。  
日本の生徒がお手本を見せた後  
一緒に折り、たくさんの鶴が完成。



## 一緒に歌おう！

1日目にも登場したオハナアーツの  
メンバーと一緒に1曲の歌を覚え、声  
を合わせて歌いました。



♪ Five hundred  
twenty-five  
thousand six  
hundred  
minutes...

## 一緒に創って踊ろう！

その後、オハナアーツのメンバーをリーダーとして  
ミュージックビデオづくりをしました。音楽に合わせて  
踊ったり、アナと雪の女王のパロディをしたりと、  
表現力豊かにパフォーマンスしました。



# 3日目 7月30日(土)

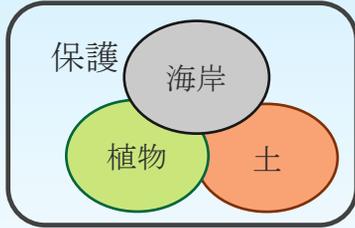
## フィールドトリップ

- 開発から自然を守っている4つの場所&自由行動 -



# ① SANDY BEACH

『KA IWI Livable Hawaii Kai Hui』という団体の代表者による説明です。このビーチは、ホテルやゴルフ場などの建設による開発がされようとしていた40年前から**世代を超えて、幸せ、文化のために**守り続けられています。**海岸**を守るだけでなく、**土**も守り、良い土を保つことにより、**植物**も昔からハワイにある状態のまま保たれています。



この団体の活動を見て、**近隣住民も海岸沿いの環境を守りたいと思いはじめ**ているそうです。例えば、市役所が駐車場をつくりたいと言ったとき、住民はそれに反対しました。また、この団体は、海岸や土を守るだけでなく、そのように自分たちの自然を守りたいと思っている住民の支援活動も行っています。

「海岸に立ち入る際は入場料を取れば良い」と言われた際には、もし入場料を取ると、屋根のある施設や駐車場などをつくる必要があり、環境を壊してしまう、という理由で反対したそうです。

「**観光として訪れるだけではなく、ワイキキ本来の自然を見て自分たちの考えや思考を見つめ直して欲しい。**」という熱い思いを語られていました。



自然は壊すのは簡単だけど元に戻すのは時間がかかる!

# ② Makapu'u



「Maka」＝「eyes(目)」、  
「pu'u」＝「hill(丘)」という意味があります。

Makapu'u周辺は、何も開発されてない海岸です。向かいの山を開発されないように買い取ったり、**募金活動**を行ったり、自然保護のための活動が行われたりします。

“ツーリズムとの共存”

この海岸近くは、ハイキングや **パラグライダー** をする人で賑わっている分、ポイ捨てされるゴミなどが増えています。しかし、**オープンな状態にし、たくさんの人に訪れて欲しい**という思いがあるため、どうしたらうまくいくかを検討しているそうです。



まだ開発されていない昔の自然のままの土地を保護!



ラビットアイランド



### ③ Hawaii Kai

谷には農場が残っているけれど、そこも、開発されようとしています。しかし、壊されないよう、交渉しているそうです。

元は湿地だった場所に家がたくさん建ち、昔からハワイに住んでいる人(ハワイアン)の土地も**開発**されました。

「昔の人が守ってくれたおかげで、今のこの土地がある。これからの**自分たちの活動**が、**未来の子供たちにどうやって残っていくか**が鍵となる。**住民と共に活動**を続けていきたい。」という思いを語られていました。ちなみに、土地を守るだけではなく、ハワイ島・オアフ島にしかない鳥を守る活動も行っているそうです。



すでに開発されているが住人に呼びかけこれ以上昔のままの自然が変わらないように活動!

### ④ HANAUMA BAY



この**広場**は、**火山のクレーター**でできた土地です。広場の下に広がるビーチには、近くにある教育センターで7ドルの入場料を払って、注意事項のビデオを見ないと入ることができません。



ハワイアンは、**ハワイの土地は元々全て神様の物である**と考えていました。しかし、白人が移入してきてから、どこが誰の土地であるのかを分け始めたそうです。そのため、**ハワイ本来の、神様の土地を維持させるためにも、自然保護の活動**をしています。

Princess Puahi Bishop さん

- ・お金や土地の寄贈者
- ・カメハメハスクールの創設者
- ・ハワイアンや希少な魚を守るため

Key Person

※水族館などで高値で売ることができる希少な魚を捕る人が多くいるそうです。そのような事態を避けるため、魚を保護しています。

### Afternoon



SANDY BEACH にて



自由行動



グループごとに自由行動をしました。**アラモアナショッピングセンター**で買い物をする生徒が数多くいました。

# 4日目 7月31日(日)

## フィールドトリップ

### - 真珠湾訪問 & 自由行動 -



# 真珠湾

アメリカの歴史を伝える上でなくてはならない場所です。この敷地内に、**国立で管理されている慰霊施設であるアリゾナ記念館**があります。



## 真珠湾攻撃とは…

現地時間の1941年12月7日(日)朝、**日本海軍による真珠湾攻撃**が行われました。この**日本による真珠湾攻撃を引き金に、太平洋戦争に突入**しました。

## JIMMY LEE さんの体験談

第二次世界大戦を生き抜かれ、1941年に起きたことを知っている方です。



「11歳の時、真珠湾攻撃に遭いました。真珠湾から1マイルほど遠くない場所にある農場で育ち、豚やにわとりを飼っていた貧しい家庭でした。日曜日の朝、住民が休んでいる時に日本国軍は訪れました。



旗の上に飛行機がたくさん飛んでいたのが見えました。車体に赤い丸が見えたことで、日本人が来ていると気づきました。パイロットが見えるような低さで飛行機が飛んでいると好奇心がわきました。高い場所に登って他の子供と一緒に座り込んで眺めていました。すると、火が上がり、爆発音が鳴り響き、それはまるでハリウッド映画のようでした。真珠湾には小さな船がたくさんありましたが、それとは別に戦艦も集められていました。日本人の攻撃のターゲットは決して都市や人々ではなく、これらの戦艦でした。たくさんの戦艦の中でも、アリゾナが水中に沈んでいくシーンは脳裏に焼きついています。日本の飛行機が来てすぐは怖くありませんでしたが、スピーカーで「戦争中である」ということを知らされて怖くなり、山へ逃げました。この日の攻撃は3時間余りで終わりました。そして、家に帰った時には、戦艦は無くなっていました。

たくさんの戦艦があつという間に壊されたのです。後に、軍の管理の下に置かれるようになり、朝6時から夕方6時以外の時間は外に出るはいけないという制限がありました。しかし、家にいる牛の世話をするために時間外に野外で活動をしていました。そのため、軍人にナイフやライフルを体に突きつけられ、何度も刑務所に連れて行かれそうになりました。」

ジミーさんは、幼い頃近所で仲の良かった日本人の友人についても触れ、戦争によって友と離ればなれになった辛さも語ってくれました。70年間探し続けた友は亡くなっていたことが分かりましたが、その子や孫にあたる方と交流され、語り部を続けていらっしやるとのことでした。

ジミーさんは、幼い頃近所で仲の良かった日本人の友人についても触れ、戦争によって友と離ればなれになった辛さも語ってくれました。70年間探し続けた友は亡くなっていたことが分かりましたが、その子や孫にあたる方と交流され、語り部を続けていらっしやるとのことでした。



# パールハーバー資料館

ジミーさんのお話を聞いた後、**パールハーバービジターセンター**の見学をしました。第二次世界大戦について説明したたくさんのパネルや当時の服や機械、戦艦の模型など展示されていました。その中には、広島の佐々木禎子さんのエピソードや千羽鶴もありました。



# アリゾナ記念館

渡し船に乗り、**アリゾナ記念館**へ。

真珠湾攻撃の日は、出航に備えて重油が満タンだったため、撃沈された戦艦アリゾナからは**70年経った今でもオイルが海に流れ続けています**。それは、「**アリゾナの涙**」「**黒い涙**」とも呼ばれています。

記念館の一番奥には、**戦没者名簿の部屋**がありました。当時は兄弟で同じ船を志願する人が多かったため、兄弟共々命を落とした方が多かったそうです。



実際に攻撃を体験した人は年々少なくなってきました。その人達だけで、**戦争の恐ろしさ**を伝えることは難しいです。御本人だけではなく、体験談を聞いた人たちが、さらに次の世代に伝え、**世代を次々超えて伝え続けていくべきだ**と思います。昔があるから今がある、今の行いが未来につながる…**今生きている私たちの行動が未来の子どもたちへ影響を与えるのだらうと**改めて感じることができました。





# 5日目・6日目 (8月1日[月]-8月2日[火])



# Icebreaker Activities

チームレ点メンター 下宮 勇生先生  
広島観音高等学校 山崎 友亮先生

ミックスカントリーでグループ分けされた生徒たち。「Which do you like apples or bananas?」など、グループ内の全員が一致するようなquestionsを考えて質問しました。制限時間内にたくさんの**共通項**を見つけて、グループ対抗でpointを競いました。山崎先生から「Let's ask! Many! Many!」「Get point! Good!」などの声かけがあり、**国の壁を越えて**、多くの質問が飛び交っていました。生徒達は1pointゲットする度に歓声があがり、笑顔が絶えないほどの盛り上がりを見せていました。



イースト・ウェスト・センター プログラム開発ディレクター  
ナムジ・スタイナマン氏

「〇〇出身の人と覚えるのではなく、きちんと**名前**で**友達を呼ぶ**ようになろう。」地球儀ボールを使って、パスする人はキャッチする人の名前を呼びながら投げました。はじめはぎこちなかったパスまわしも、だんだんスピードアップし、ボールの数が増えて難度が上がっても、難なく活動していました。最後には、グループ全員の名前と顔が一致するまでになりました。今まであったグループ内の**緊張感が消えて**いきました。

## Field Debriefing

高校生平和大使として、活動をしています。私は、パールハーバーで**日本の加害の面**に**目を向けるのが怖かった**です。生存者のジミーさんの「出身地が違って友達」「友好的な炎」「日本軍は大都市であるホノルルは攻撃していない」という言葉が印象に残りました。歴史に向き合ったり、継承したりしないといけないと思いました。「平和を作れる人」について考え、「**笑顔がある**」「**お互いに尊敬する**」など、様々な平和の定義がされた。平和も持続可能性も、どちらも1人だけじゃなくて、**みんなのため**にあると思いました。



広島高等学校  
井上つぐみさん



広島大学附属高等学校  
清永敦生さん

ESDの授業で、持続可能な開発と環境について考えることに取り組んでいます。ハワイでの講義やフィールドワークでも、環境保護と開発について学びました。人によって、「美しさの定義」は違い、人工的美しさや自然の美しさなどがある。私はこれらの学習を通じて、**持続可能な発展を続けていくべき**であると考えます。**環境を守ることも大切だし、私たちの生活を快適にすることも必要**です。つまり、**環境保護と開発のバランスが大切**であり、今後の課題です。

# Field Trip's Reflection

ナムジ・スタイナマン氏

真珠湾で、当時の様子を知っている人からお話を伺ったことや資料館を見学したこと、アリゾナ記念館を訪れたことなどを通して、自分の考えたことをみんなで共有しました。「Do your best to express your idea.」というナムジ氏の想いを受け取り、しっかりと自分の考えを英語を使って相手に伝えていました。

今までは、広島原爆のことしか知りませんでした。真珠湾攻撃のことを学んで、アメリカ・日本とも暗い過去があることが分かりました。悲しい気持ちになるけど、**もっと両国のことを知りたい**と思いました。



昔は昔、今は今として、**日本とアメリカの人**が関わる場所作りをしていきたいです。オバマ大統領が広島を訪問したり、今回、私たち広島の高校生がハワイを訪問したりと、**互いに理解しようとする姿勢が大切だ**と思いました。

## ●KAI HUIを訪れて考えたこと

保護区のKai Huiの自然を見たことやボランティア活動をしている人の話を聞いたことを通して、「word clouds」をWordle上で作成しました。**単語や熟語を使って、自分の気持ちを要約して表現**した。文字の色、フォント、大きさ、配置を自由に変えて、オリジナルの図を完成させました。



# Design Thinking

## ●READY ASIA-PACIFICについて



R3とは、Risk、Reduction、Resilienceのことです。ハザードマップ作りなどの例を出しながら、フィリピンでの活動を話してくれました。



アキコ・オオタニ氏

## ●CIRCLE OF STRENGTHについて

自分に起きた悲しい出来事が家族や地域、世界とどのように関わっているかを考え、円の中に絵で表現しました。これによって、**自分自身の内面に向き合う**ことができ、**自分と周りとのつながり**を見い出しました。



- ①全寮制の学校が火事になり、友達が1人亡くなりました。
- ②家族で休日にイスラム教のお祈りに出かけました。
- ③ジャカルタで有名な観光スポットのモナスに行きました。
- ④P4Yで協働しています。



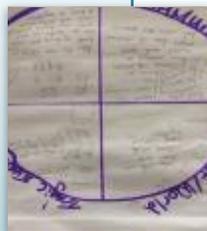
- ①お母さんが私を産んだ後、2人の子供を死産しました。
- ②弟が生まれて、命に感謝しています。
- ③地域の人と集まったり、挨拶したり、共通の場を探したりします。
- ④海が好きで、家族でよく訪れます。



- ①脳梗塞でお父さんが倒れました。
- ②すごく悲しんでいた私に家族が愛をくれました。
- ③地域の人々が心配して、励ましてくれました。
- ④将来、世界で人のためになる仕事に就きたいです。



- ①マオリのアイデンティティや文化が失われつつあります。
- ②古い先祖の継承が弱まっています。
- ③マオリのミーティングハウスで話し合いをします。
- ④マオリのアイデンティティや文化が活性化します。



- ①母方の祖父母が亡くなりました。
- ②妹が生まれ、父方の祖父母と一緒に過ごしました。
- ③マライ(マオリの集会場)で文化的交流ができ、地域のつながりがうまれました。
- ④世界中の異なる人々や文化が集まります。



## ●MANDALA OF YOUR VISION

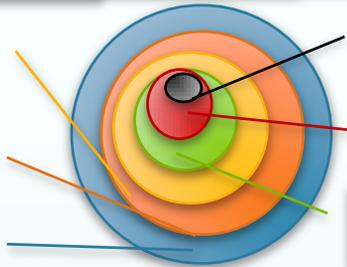
マンダラは、インドの信仰で世界を表現する宗教的・習慣的な印です。幾何学模様などを用いながら、**目標を実現するためにどうすれば良いか**を円の中心から外へと順に考えるプロセスを学びました。個性あふれるデザインを考え表現し、発表していました。円内にとどまらず、円の外側までデザインにこだわるグループや、発表のために考えた英語の原稿を海外の学生にほめられ、英語力に自信を持って発表に望む姿も見られました。



④Strategies 戦略

⑤Activities 活動

⑥Resource 資源



①Goal 目標

②Outcome 結果

③Objectives 目的

## ●WATER TOWER

身近なトランプなどの素材を使って、高さのある丈夫な給水塔をグループで協働して作成しました。自分の考えを**言葉や絵で表現**したり、実際にやってみせたりして、コミュニケーションをとりながら和気あいあいと活動していました。トランプの組み方を**複数試作**しているグループや、作成部位の**役割分担**をしているグループもありました。ナムジさんのドライヤーテストによって、トランプでつくられた給水塔が倒れないように、**創意工夫のあふれた作品**が出来上がりました。



## Area activity

各エリアで、これからのエリアの活動のための情報収集などを目的とし、ハワイという土地を生かして、フィールドワーク等を行いました。

### ●KFS' S エリアA

次の日に備えて、発表を考える活動をしました。発表順番を考え、盆踊りをどこのタイミングで踊るかなどを話し合いました。発表の流れを話し合い、導入・内容・まとめの3グループに分かれ、英語で発表原稿を考えました。スライドを作成し、全員で確認して、意見を出し合い、推敲しました。



### ●FEEL エリアB

まず、都会と田舎を比較するために、田舎のワイマナロに住んでいる人たちにインタビュー活動をしました。「この地域に何か問題(課題)は?」「この地域の何が好き?」「田舎と都会の違いは?」などの質問をしました。時には住民の方が声をかけてくれ、生徒たちのやる気や積極性もインタビューするうちに高まってきました。最後に、ダイヤモンドヘッドに登り、改めてハワイの自然環境について考えました。



### ●KKS HOMES エリアC

まず、ハワイへ移民した日本人の経緯を知るために、日本文化センターを訪れた。展示物やビデオを通して「なぜ日本からハワイに移民したのか?」という歴史を学びました。次に、今後のワークショップに向けて、ナムジさんと座談会を開き、質問をしたり、アドバイスをもらったりしました。最後に、今まで学んだことを振り返り、今後のエリア活動について話し合いました。



### ●チームレ点 エリアD

「カッテデミー賞」の海外版として、ハワイのワイキキで頑張っている日本人や現地の人たちを見つけ、3~5人の小グループに分かれて取材をしました。いくつかのグループは日本人探しに苦戦しましたが、あきらめることなく情報を集めました。また、自分たちで作成しているフリーペーパーに掲載する集合写真をビーチで撮りました。その後、宿泊場所に戻り、リフレクションを行いました。





# AREA ACTIVITY

午前中は午後の各エリア、各国の活動発表に向けての準備を行いました。

外で発表の練習中！



午前中から、プレゼンの準備を始めたチームもいれば、前日からプレゼン準備を始めたところもいて、チームによってそれぞれでしたが、限られた時間の中で工夫しながら準備を進めていました。



どこのチームもいくつかのグループに分かれ、分業してプレゼンの準備を行いました。



# Group Presentation

午後からは各グループ10分程度で発表を行いました。

## エリアA KFS's

前日に学んだマンダラを活用し作成した発表を行いました。地域との繋がりが薄い子供を対象に、地域とのつながりをつくる活動を行っています。発表の最後の方には、地域の現状を知るための活動の一例として、帰国した次の日に参加する地域のお祭りで踊る盆踊りを披露しました。周りの人も巻き込んで盆踊りをし、盛り上がりました。

## エリアB FEEL

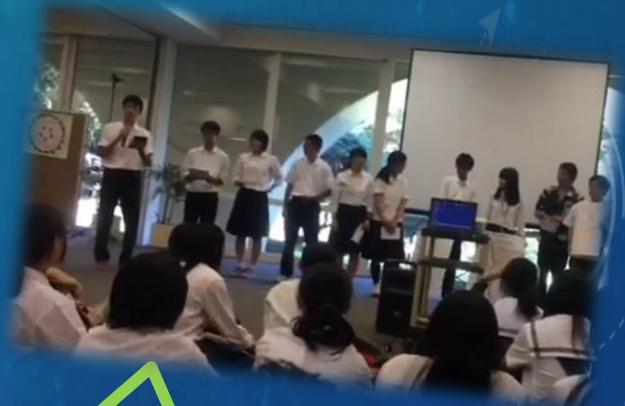


### “トナカイフェス”

この企画は、一過性のものではなく、イノベーターが新たなイノベーターを育成する循環型社会を形成するためのもので、都会と田舎の繋がりを強くするものであることを英語で発表しました。

## エリアD レ点

「カッテデミー賞」という企画は、地元に関心な若者に、まずは地元を知ってもらうため、地元で頑張る人を表彰・取材し、フリーペーパーを通して発信していく企画です。この企画を通して、地元のよさに気付き、地元を良くするイノベーターを増やすことが目標です。寸劇や組体操を盛り込むなど、個性あふれる発表を行いました。



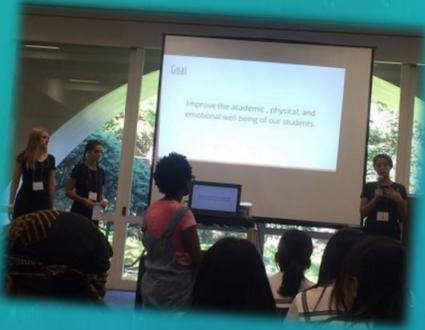
## エリアC KKS HOMES

「いつでも帰ってこられる故郷を未来のために」をテーマにという、故郷を作るために、平和に関する活動を行おうとしています。平和について海外の人はどうとらえているか、今回のグローバルスクールでアンケートを行いました。最後に、今後、平和に関するワークショップを開催するにあたって、アドバイスをナムジさんからいただいたことなどを発表しました。ハワイでのワークショップを参考にして、日本でのエリアスクールなどの活動に生かしていきたいです。



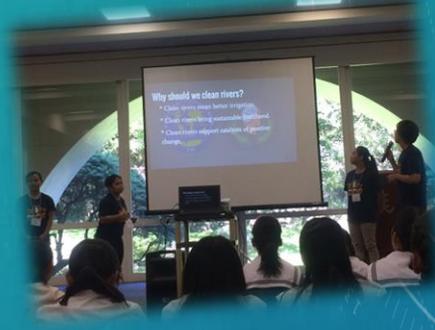
# Scarsdale High School

学校におけるストレスマネジメントプロジェクト  
テストが重なる季節、生徒のストレスは頂点に達します。そんなとき、生徒が息抜きができるようなイベントを生徒自身が企画し、実施することによって、生徒のストレス軽減を図ります。



# Philippines

P4Y River Cleaning Action Plan Cebu  
生活環境改善の一つとして、川をきれいにするプロジェクトです。学校で呼びかけるなど、まわりを巻き込み実行します。また学校では、川をきれいにするためにどのような化学物質が有効かなど、研究しています。



# INDONESIA

## Save our hills and city

丘の開発による洪水等に対する防災に取り組み、その取組を世界へ発信するプロジェクトです。



# Furr High School

## Child obesity

子供の肥満を減少させるプロジェクトです。外部の関係機関とも連携し、食育、運動の促進など様々なプログラムを実施する予定です。



# New Zealand

## 川をきれいにするプロジェクト

地域の関連団体を巻き込みながら川をきれいにするプロジェクトです。



# Brooklyn Friends School

## “P4Y360°” プロジェクト

ニュースを世界の多様な視点で捉え、発信するプロジェクトです。日本の生徒にも参加してほしいとの呼びかけがありました。



# Cultural performances 文化紹介

## <フィリピンの文化紹介>



Traditional Barong at Sayaという伝統的な衣装を着て、踊りを披露してくれました。とても可愛い衣装と、踊りが印象的でした。

羽子板

## <日本の文化紹介>

けん玉、羽子板、お手玉、こまなど日本の伝統的なおもちゃを活用し、文化紹介を行いました。



## <USの文化紹介>

「Cupid Shuffle」という曲を紹介してくれました。とてもノリのいい曲で生徒だけでなく参加者全員が踊り、歌い、盛り上がりました。

To the right, to the right, to the right ~ ♪

## <ニュージーランドの文化紹介>

伝統的な舞踊「ハカ」を披露してくれました。とても迫力あるハカに圧倒されました。

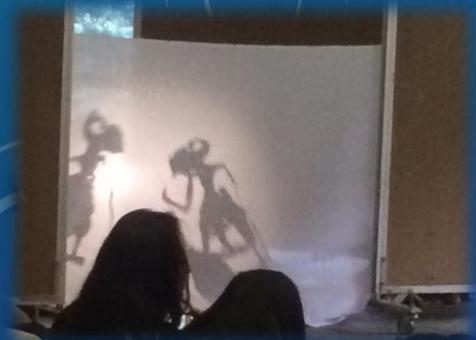
「ハカ」とはニュージーランドの一般的な民族舞踊であり、現在では相手に対し敬意や感謝の意を表する舞として披露されます。



## <インドネシアの文化紹介>

今回の学びを、伝統的な踊りと影絵(ワヤン・クリ)で表現してくれました。(日本人の生徒もキャストとしてサプライズ参加していました！)

影絵では日本の有名な曲の披露があったりと、ストーリー性も高いものでした。



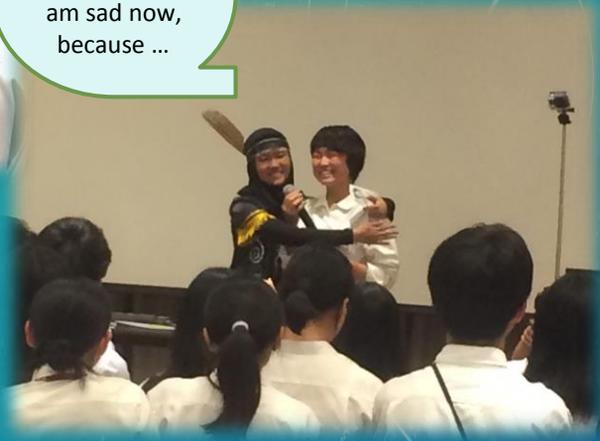
# Evaluation/Debriefing

二枚の銀色の紙が配られました。最初一枚には「自分の変化」について、もう一枚は、「この活動を通して変わったこと、得たこと」を書き、みんなでシェアしました。その後、アンケートの記入などを行い、グローバルスクールの振り返りを行いました。



At first I was happy, but I am sad now, because ...

ナムジへのThank you letter 贈呈！  
みんなの気持ちが書かれた紙で作った箱です。最後のピースはナムジ用で、ナムジのピースで箱が完成するようになっています。



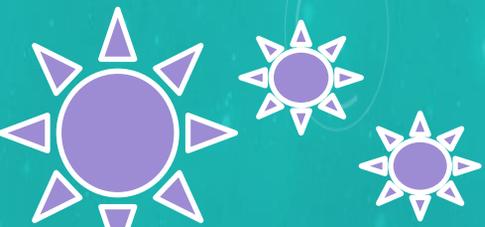
生徒を始め、先生からメンター、スタッフ、参加者一人一人にグローバルスクールの修了証書が配られ、最後に全員で記念写真を撮りました。



## See you in Hiroshima

最後の時間だけあって、時間いっぱい写真を撮ったり、話したりと別れを惜しみ、最後の交流を楽しんでいました。





8日目: 8月4日 (木)



# ～帰国～

三年生へ「修了証書」を授与しました。  
一年間、お疲れ様でした！



最後の学食！毎日ご馳走様でした。



最後の記念写真！

先に福岡空港組が出発しました。



Goodbye Hawaii !  
約8時間半のフライト、飛行機から見る  
ハワイ



無事帰国。長いフライト、時差ボケでとても  
疲れています。関西空港では久しぶりに日本  
食を食べました。



## グローバルスクールinハワイについて

- (1) 期 日  
平成28年7月28日(木)～8月4日(木)【8日間】
- (2) 会 場  
イーストウエストセンター※(アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル)
- (3) 参加生徒  
広島創生イノベーションスクール参加生徒71名(県内国公立私立高校13校)  
海外パートナーズスクール等の生徒49名(4か国15校)
  - ・アメリカ合衆国:4校29人(ハワイ州, ニューヨーク州, テキサス州)
  - ・ニュージーランド:4校6名
  - ・フィリピン:2校4名(セブ)
  - ・インドネシア:5校10名
- (4) 内 容

区 分	プログラム概要
事前研修 (Web上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介の投稿・共有 学校や地域の紹介, プログラムへの参加動機の紹介等</li> <li>○事前学習資料に対する各個人の解釈の投稿・共有 持続可能な社会の構築に向けた世界や地域の課題に関する文献に対する感想の投稿等</li> </ul>
ハワイ 現地研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各国生徒とのワークショップ 「2030年のよりよい世界」へ向けての課題設定及び課題解決のための取組計画の協議・発表等</li> <li>○各国生徒とのフィールドワーク ハワイ州オアフ島における開発地及び未開発地(自然保護地域)の比較考察, 真珠湾訪問等</li> <li>※詳細は別紙日程表のとおり</li> </ul>
事後研修 (Web上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修プログラムに対するリフレクションの投稿・共有 プログラムを通じた気づきや振り返りの投稿等</li> </ul>

※ イーストウエストセンターについて  
アメリカ合衆国連邦議会が, アジア太平洋地域の共通課題の研究を通じた相互理解や専門性の深化を目的として, 1960年にハワイ州に設立した, 独立の教育研究・人材育成機関。

# 生徒リフレクション

**【2年生・女子】** 国などとは関係なく個人間でも多くの人の意見を聞くことができ、その中ですごく自分に刺激になる考えにも出会った。いろいろな角度から見た意見を聞くことで、自分の考え・意見をより良いものにリファインできた上、1人だと気づけなかった重要なことに気付かされることもあった。自分が学んだこと、思ったこと、考えたことをみんなにシェアすることで集団全体の理解・考えが深まることを実感した。

そうして共有の大切さに気付く中で、英語を話せることの強さと、逆に、英語など話せなくてもコミュニケーションは気持ちの持ちようだ、という二つのことを身をもって体験した。

**【3年生・女子】** グローバルスクールでの学びを通じて得られたことは、友達や先生との素晴らしい出会いにありました。5カ国から集まった同じ世代の生徒と交流し、彼らが日々何を感じ、どんな活動をしていて、将来どんな人になりたいのかを知ったことで、自分の見ている世界が広がりました。そして何より、強く熱い思いを持った彼らと、これからの世界を自分たちの手で創っていくことを考えると、とても楽しみになりました。

今後はグローバルスクールを通して気づいた、自分の強み、友達の良さを大切にしたいと考えます。そして、どのようにしたら価値観の違うもの同士が自由に考えを述べ、本当に大切なことを見失わずに、自分たちにとって、世界の人々にとって、未来を生きる人々にとって、よりよい選択ができるのかを考えていこうと思います。

**【2年生・男子】** 私たちのエリアは平和について考えている。平和といっても様々な平和がある。今回海外の生徒向けに行ったアンケートでも、「自由であること」「協力し合えること」「どんな人でも認め合えること」「争いが無いこと」など、様々な考え方が出てきた。今回の活動で、改めて広島や日本だけに注目せず、世界に視野を広げると、国の様々な過去や、様々な境遇があることを実感できた。日本だけに目を向けていると、戦争のことならただただ「原爆を落とされた」といったような事実しか目に入ってこないが、フィリピンや真珠湾などに視野を広げると、日本が攻撃を仕掛けていたり、また、関係のないフィリピンなどを戦場として戦っていたりしていることがわかる。また、生活環境などにおいても、日本に住んでいては想像もできないような劣悪な環境で過ごしている人もいる。そういった人たちが本当に平和なのだろうかということについても考えさせられた。平和というのはとても幅広いが、今後は、せっかく世界に飛び出していったので、世界を見てみたいと思った。

【1年生・女子】グローバルスクールに参加したことで他国の人の価値観や文化、それぞれの国での問題など多くのことが学べました。異なる価値観に対し、自分は共感と敬意を持って前向きに受け入れようと思えたと思います。他国の生徒は自分たちの国の問題についてよく理解しているし、その解決策についても自分たちで深く考え、はっきりとした意見を持っており、自分の国に誇りを持っているのだらうと思えました。尊敬します。私も自分の国について向き合い、魅力や問題を再発見したいと思えました。

そして、私はこの経験を将来の進路に活かさないかとも考えています。英語を使って様々な価値観を持った人と関わったらどんなにおもしろいことだろうかと思えます。そのためにも、英語の学習を頑張りたいと思えます。「英語」を学ぶ理由が理解できた気がします。

【2年生・女子】平和についてのワークショップは、これまでの活動の良い点と悪い点を発見できました。また、海外の人が平和についてどう考えているのかもわかりました。パールハーバーでは、外国の考え方とともに、お互いの国が主観的になりすぎているかなという発見もできました。戦争は悪い、よいとできる理由はない。よい国なんてない。みんなそれはわかっています。それでも、相手ばかり責めていては何も始まらないと思えます。大事なのはお互いが事実を知ったうえで、これからどうすれば過ちを繰り返さないかを考えること。未来を担う世代として、それがより良い世界を作るためにできることだと思えます。

【2年生・男子】グローバルスクールを通じて私が最も得られたのは「海外の文化に触れ自分たちの文化を再確認できる力」です。書物やネットなどを用いて簡単に様々な文化を調べ、「知識」として吸収することは容易になりましたが、あくまでそれは知識で終わってしまいます。しかし私は今回のグローバルスクールで実際に生の文化に触れることができました。それは言葉、所作に止まらずに踊り、歌などにも及びました。ニュージーランドの迫力満点の「ハカ」という伝統的な踊り。それに対して僕たちが日本へ帰国した次の日に行われた、曲にあわせて皆で環を作る「盆踊り」。同じ「ダンス」という文化ですが曲調や振り付けの激しさ、踊る人数などそこにはとても大きな違いがあります。そういった文化の違いに触れることで自分たちの文化の良さを再確認できるというのは、簡単そうに聞こえますが意外と難しくまたとても貴重なことではないかと僕は認識しています。



# Global School in Hawaii



Next Summer ▶▶▶  
Glocal School  
in Hiroshima

